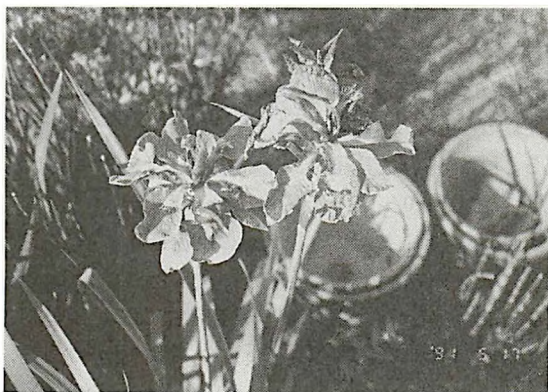


柳井市に八重咲きアヤメ

南 敦

1989年5月22日、柳井市古開作の水島綾子さんから「庭のアヤメから面白い花が咲いたから見て下さい」、「以前からあった普通のアヤメが今年から八重になった」。早速見に行くと確かに八重咲きであった。手持ちの文献26種類を調べても、アヤメに限って「八重咲き」の記載を見い出せなかった。現在、その苗をいただき私宅で増殖し研究している。普通のアヤメでは外花被3枚、内花被3枚、おしべ3本、めしべ1本である。この八重咲きアヤメでは外花被が18~24枚、内花被は0~3枚、正常なおしべは1本もない。めしべはほとんどの花でなく、稀に奇形があった。

水島綾子さんはこのアヤメをどこから手に入れたか不明のようで「昔から庭にあった」と言われていた。はたして、1989年に「八重咲き」になったのであろうか。ただし、ユリなどではある年に突然帯化(石化)がおこり数十の花を咲かせることがある。(写真は八重咲きのアヤメ。1991年5月17日、私宅に栽培のもの)



北海道におけるエゾノミズタデの一産地

角 野 康 郎

北海道におけるエゾノミズタデの産地について、本誌24ページで外山雅寛氏が報告しておられるが、そこに挙げられていない産地があるので記録しておきたい。

場所は空知支庁空知郡北村と樺戸郡月形町の境界に位置する雁里沼で北村豊里地区と月形町枯木地区をつなぐ

橋の下付近にかなりの規模の群落をなす。この産地に気づいたのは、石狩川流域の河跡湖の水草を調査して回った10年以上前であるが、今年(1991)8月10日に再び現地を訪れる機会があり、エゾノミズタデ群落の健在を確認することができた。

ところで、今回、石狩川水系の何カ所かの河跡湖を訪れたが、埋立てによって姿を消しているものの多さにあらためて驚いた。何の利用価値もない水域と見なされて埋立てられていくのであろうが、整然と区画整理の進んだ北海道の耕作地の中に残された数少ない自然である。日本では、河跡湖そのものが残り少なくなっている。水生生物の生育環境として保全の手立てを考えるべき重要な水域のひとつであるにちがいない。

○文献リスト (1990-(4))

吾妻光春. 除去に苦勞したり南支の農村で驚いたり
《ホテイアオイは汚水浄化抜群で21世紀のバイオ資源》 ホテイアオイ研 Newsletter (17): 18.

井上裕靖・草薙得一. ホテイアオイの個体数増加速度に関する一考察. ホテイアオイ研 Newsletter (17): 16-18.

内山知二・北牧篤志・日野和裕・清水武. クワイの栄養生理特性と肥培管理に関する研究(第1報) クワイ栽培ほ場における養分収支. 大阪農技セ研報 26: 7-10.

幸路次郎. ホテイアオイの開花後における花茎の下垂屈曲について. ホテイアオイ研 Newsletter (17): 14-15.

小宮定志. シロバナミミカキグサ. 植研 65: 185.

齊藤政美. 宮崎県の水生植物II(県南地域). 宮崎県総合博物館研究紀要 (15): 3-10.

猶原 順・大田広正・吉井功知・山下栄次・石井 猛.
ホテイアオイ中の食物繊維含有量と季節変化.
ホテイアオイ研 Newsletter (17): 2-5.

長島 正. マコモ栽培法の概要と除草. 雑草とその防除 (27): 42-45.

新見 正. 用済みタイヤを活用する水上農園芸法. ホテイアオイ研 Newsletter (17): 5-7.

Arima, S., N. Tanaka & F. Kubota. Growth of vegetative organs in water chestnut